



episode.06

## 苦労は辛いが役に立つ タカエビと歩いた私の人生

話し手 漁師  
もり あつし  
**森 篤さん** (大正15年7月15日生)

聞き手 希望が丘学園 鳳凰高等学校 1年

### 父と私

私はね、2、3歳の頃から、漁をする父の背中を見ながら育ってきたんです。まだなんにも手伝えないのによく漁に連れて行って来てね。そんな父の姿に憧れて漁師になったんですよ。最初はタルメ\*を獲っていたけど、ある時、組合長にタカエビを獲ってみてとお願いされて、それからタカエビ漁を始めました。でも、まともにタカエビが獲れるようになるまでは苦労しました。たくさん勉強や、工夫をしました。いろんなことを試すなかで、ある時、縄をあげるためのローラーを変えてみると大漁！エビ、エビ、エビの満船になったんです。あの時は、父の背中に近づいたような気がして嬉しかったなあ。

### 「運」を持つこと

タカエビ漁でやっていけたのも、タルメ漁で苦しい経験をしたからだね。

漁をするなかで、全然タルメが獲れなくてもう漁をやめようと思っていたことがあったんです。でも、漁を辞める前にどうしても仕掛けを置きたい場所があってね。それで、仲間に「漁師を辞める前に、仕掛けをしたい場所があるから行かせてくれ。」と一生のお願いをしたんです。そしたら「いっきゃらんかい」って背中を押してくれて。早速目的の場所に仕掛けを…。そしたら大当たり！

この経験から思うのだけれどね、技術も大事だが、運を持つことも大事なんですよ。私がこの時



写真：野間池漁港



成功したのも、仲間の「いっきゃらんかい」の一言があったからこそ。徹底的に物事に熱中する。「誠」の心を持って努力を続ける。そうすれば、自然と神様が運を与えてくれるんじゃないかな。

### 海にのせる私の夢

やっぱり航海は危険がいっぱいで「命あってよかった」と思うことが何度もあったね。まあでも、タカエビ漁をしていてなんにも後悔はない。なんといっても海の仕事には夢がある。自然が相手の仕事だからままならないことも多いんです。だからこそ、自分の思うように魚が獲れた時はたまらなく嬉しい。私は93歳になりましたが、いつ死んでもいいくらいに充実していますね。この仕事をやって良かったでは足りない、最高や。生まれ変わってもまた、エビ獲りをしますよ。

※タルメ…いわゆるメダイのことであり、スズキ目イボダイ科に分類される。  
産卵期は冬であり、生息域は北海道以南から沖縄までの各地で、成魚は水深100～300mの岩礁地帯に生息している。



#### 聞き書きコラム

### タカエビ

タカエビはいわゆるヒゲナガエビのことでありクダヒゲエビ科に分類されるエビの1種である。成体の体長は15cmほどで、体表は橙を帯びたピンク色であり、短毛が密生しつやがないことが特徴である。

鹿児島県水産試験場の調査によると、漁期は4月から12月までで、春から夏にかけてが盛期であり、主に曳き網で漁獲されている。

日本近海では、駿河湾や九州南西沖の東シナ海に多産し、深海性のエビの中では比較的漁獲量が多く、肉質も良いことから、産地周辺では重要な食用種となっている。